



高知県 議員視察

5月13日から15日まで、議員9名および議会事務局1名の総勢10名で議員視察研修を行いました。

今号では参加議員によるリレー形式で視察内容を報告します。

編集：木村 諭史・小久保 利佳



高知県は、過去にも大きな地震、津波に見舞われ、甚大な被害を出してきました。

過去の教訓を
生かせ！

南国市は、最大震度6強
で、高知県は、震度6強
7、黒潮町などで全国最大
の34mの津波予想。その
後、全県的に津波から「命
を守る」ことを最優先課題
に掲げ、津波避難空間の確
保を進め、平成29年3月に
津波避難タワーを視察しま
した。南国市は県都・高知
市の東側隣に位置し、人口
47000人余りです。南
は土佐湾に接し、北部は四
国山地南端に連なり、沿岸
部から中央部の高知平野に
至る。ほぼ平坦な地形が印
象に残っています。津波対
策の緊急性・重要性を痛感
いたしました。

南国市は、最大震度6強
で、高知県は、震度6強
7、津波高15m超の想
定。南国市のハザードマッ
プでは、海岸線近くに14基
の津波避難タワーがずらり
と並び、その奥側（海から）
には非浸水域の高台などに
一時避難する避難場所、さ
らにその奥の安全地帯に一

防災・津波対策も先進的な地域であることか
ら、そちらもあわせて視察先に決めました。

また高知県は太平洋に面した地域であり、
記事を見つけて、住民自治の現場視察をし
たいと思いました。

域・暮らしをつなぐ、をテーマにした雑誌)
の中に、少子高齢化、過疎という新島村と
共通の問題点を抱え、自治体規模も同じく
らしいの高知県梼原町の集落活動センターの
記事を見つけて、住民自治の現場視察をし
たいと思いました。

新島村のためになることと、新島村と同じ
くらいの自治体規模のところを考えました。
日々購読している『TURNS』（人・地
域・暮らしをつなぐ、をテーマにした雑誌）

視察先選びのポイント

● 小久保 利佳

1

高知県南国市

避難タワー

● 綾とおる

南国市（なんごくし）の、
津波避難タワーを視察しま
した。南国市は県都・高知

市の東側隣に位置し、人口
47000人余りです。南
は土佐湾に接し、北部は四
国山地南端に連なり、沿岸
部から中央部の高知平野に
至る。ほぼ平坦な地形が印
象に残っています。津波対
策の緊急性・重要性を痛感
いたしました。

約9割が完成。当村と比
べ、極めて素早い取り組み
だと感嘆しました。

津波を避けろ！
命を守れ！

「質実剛健」
弱者にも配慮

津波避難タワーは、何の
変哲もないコンクリート製
の太い柱で、3階建てで
す。まさに「一時的に津波
から避難」するためだけに
作られたよう見えます。
1階、2階は壁もなく津波
は素通りします。さらに、
タワーの外周にはスロープ
が設置され、車いす、高齢
者などへの配慮も行き届い
ています。当村における津
波避難施設の整備におい
て、見るべき点は多いです。

た。平成24年、内閣府の
「南海トラフ地震」の想定
で、高知県は、震度6強
7、黒潮町などで全国最大
の34mの津波予想。その
後、全県的に津波から「命
を守る」ことを最優先課題
に掲げ、津波避難空間の確
保を進め、平成29年3月に
津波避難タワーを視察しま
した。南国市は県都・高知

定期間生活するための避難
所が配置されています。
「命を守る」から「命をつ
なぐ」との強い想いが具現
されています。

た。平成24年、内閣府の
「南海トラフ地震」の想定
で、高知県は、震度6強
7、黒潮町などで全国最大
の34mの津波予想。その
後、全県的に津波から「命
を守る」ことを最優先課題
に掲げ、津波避難空間の確
保を進め、平成29年3月に
津波避難タワーを視察しま
した。南国市は県都・高知

定期間生活するための避難
所が配置されています。
「命を守る」から「命をつ
なぐ」との強い想いが具現
されています。

2

安芸市消防 防災センター



▲安芸市消防防災センター 高機能消防司令システム・消防救急デジタル無線システムを有し、災害時には救助や支援派遣を円滑に行えるよう海岸部の監視カメラ・潮位計システムを設置。地域防災の拠点となる。

（消防本部）は、災害時の拠点として大事な施設です。高機能消防指令システム・

害対策本部・消防団本部・避難室などがあり、災害時には、千人以上が避難できるようです。

安芸市消防防災センター（消防本部）は、災害時の拠点として大事な施設です。

地震により津波が想定されることから、市役所には危険機能消防指令システム・

ここ安芸市も南海トラフ地震に対する意識を強く持っているという事です。私が感じた事は、子供からお年寄りまで、一人一人が防災に対する意識を強く持っているという事です。

新島村でも、南海トラフ地震の際には、推定30メートルの津波が予想されます。近年、起こりうる災害に対し、人的被害をなくすためには、島民一人一人が危機感を持つて防災に取り組んでいかなければなりません。

また、村・自治会・消防団・学校等が連携して、災害に強い村づくりをする事が必須の課題だと思います。

機管理課もあり、津波避難路の整備はもちろん、避難所の環境整備・避難所運営マニュアル・自主防災組織の育成をしています。

センタ一の3階には、災害対策本部・消防団本部・避難室などがあり、災害時には、千人以上が避難できるようです。

練の他に、自主防災組織による独自の訓練、学校単位での訓練を、年に数回行っているそうです。

防災訓練は、市で行う訓練の他に、自主防災組織による独自の訓練、学校単位での訓練を、年に数回行っているそうです。

村議会の視察研修では必ず行つた先の議会を訪問し、意見交換をする習わしがあります。今回の四国・高知県の研修では事前交渉の結果、2日目に梼原（ゆすはら）町議会で受け入れてくれるようになりました。

この地元議会との意見交換は滅多に体験できるものではなく、毎回楽しみでした。

前回は長野県の喬木村議会、その前は伊豆半島の伊豆市議会とそれぞれ誠実に対応していただき、みなさん率直なオープンマインドでお互いの立場が以心伝心通り合うようで、共感できることが多くありました。

3

充実した 梼原町議会訪問・ 意見交換

●青沼 弘

●山本 均

議会からは8名の議員のうち土釜（どがま）議長、下元副議長に出席していました。議員の構成は当選1回の新人議員が2名、3回・4回の中堅議員が3名（議長、副議長はこの中）、それと7回・8回のベテラン議員が3名。本職は農林業という議員が5名、あと



▲住民自ら出資・運営する四万川地区集落活動センター。ガソリンスタンドに加え、店舗部分には直売コーナーもある。

この町は、6つの区からなり、さらに区は6から15の集落で形成されている。隣家や他の集落と数キロは離れているのではないかと思われる一軒家や、数軒の集落も散見される。面積は新島の約9倍で、うち91%を森林が占めるが、高齢化率は約43%で、人口減少、空き家対策、人口誘致問題等は新島に似ている。

として、国や県の大幅補助として、環境モデル都市だけあって、街並みは整備されており、観光地としてのきれいな村があるものと見られる。

新島村も、まずは住民一體となつてルールを守り、観光地としてのきれいな村を目指しましょう。

4 四万川集落 活動センター

● 青沼 喜六

高知県では集落活動センターを核とした集落維持の一の給油所を復活させた、四万川区集落活動センターです。それによって住民の暮らしを支えている事に心をうたれました。

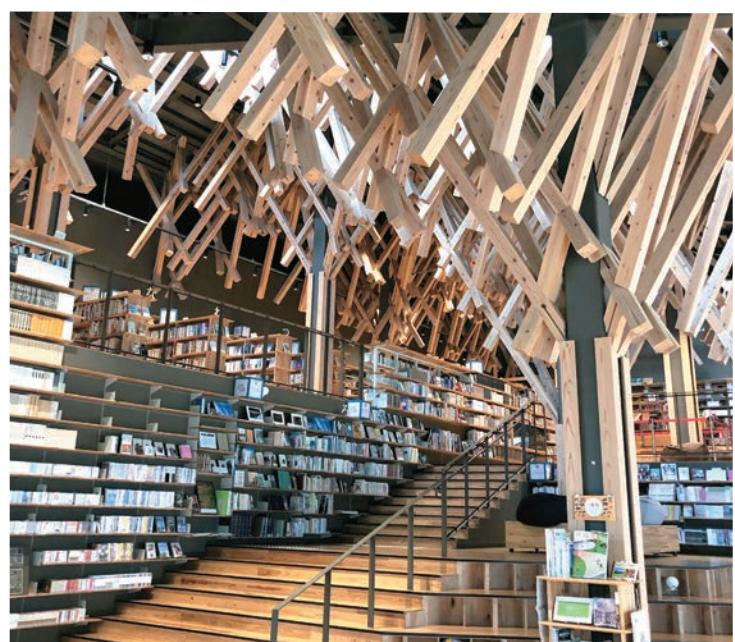
幹線道以外の道路は狭く、

アップダウンも激しい。そ

れもそのはず、ここは雲の上の町「ゆすはら」。人口が新島村より800人弱多い『町』です。そここに棚田が点在している。

この町は、6つの区からなり、さらに区は6から15の集落で形成されている。

・山間農業の町であるが、予算規模は一般会計で25億円。総額で21億円も新島村



▲地元産の木材を活用した、ゆすはら雲の上の図書館は、オリンピックスタジアムとなる新国立競技場を手がけた世界的建築家・隅研吾氏の設計。カフェスペースやボルダリング(岩登り)コーナーまである。

5 椿原町の まちなみついで

● 前田 泉

『雲の上の町』 椿原町の まちなみついで

鹿を有効活用! ゆすはら西集落 活動センター

● 前田寿夫

毎年、鹿の被害が問題となる新島では、鹿を有効活用するための取り組みが行われています。そこで、前田寿夫議員が訪問した「ゆすはら西集落活動センター」について、その取り組みや活動内容についてお伝えします。

この活動センターは、鹿の捕獲と肉の加工、販売を行っている施設です。鹿の捕獲は、毎年約10頭ほど行われています。鹿の肉は、地元の飲食店や直売所で販売され、地元の経済活性化につながっています。

また、鹿の骨格標本は、地元の学校や博物館で展示されています。鹿の生態や保護の大切さを学ぶ機会となっています。

有志の交流会で 地域コミュニティ の秘訣に触れた!

● 木村諭史

この有志の交流会では、地域コミュニティの秘訣に触れた。安芸市の自治防災、樺原町の公務員の当事者意識の高い運営など、今回の視察全体を貫く自らの精神・その土台にある人材活用の機運を感じられました。

新島では樺原町と同じ事は確保のためにも捕獲量が上がっていくことを望みます。(ちなみにジビエカーは日本に3台しかなく、2千万円ほどだと言つていました)

(ジビエカー)を活用して「ゆすはらジビエ」として販売していると言います。それも自分たちの決めた値段で買つてもらうそうです。

新島では樺原町と同じ事は確保のためにも捕獲量が上がっていくことを望みます。(ちなみにジビエカーは日本に3台しかなく、2千万円ほどだと言つていました)

毎年、鹿の被害が多くのみられています。新島では農作物はもちろん、それ以上に山の草木がかなり被害にあっていて、昨年9月の雨で若郷では新島山から土砂が流れ出し、上道線(都道211号)の約半分近くまで流れてきました。周りを海に囲まれている新島では、海にもかなりの影響が出るのではないかと心配です。山の緑の減少に伴い、海も枯れています。

毎年、鹿の被害が多くのみられています。

議員視察を「生きた視察」

にするため、有志議員とともに、高知市で住民参加のまち作りに参加している知人を訪ねたところ、歓迎会を兼ねた意見交換会を開催できました。高知県青年団連合会長を始め、自治会長、高知市町内会連合会長、近隣の議員など多数参加してくださいり、歓待を受けました。

委員会より

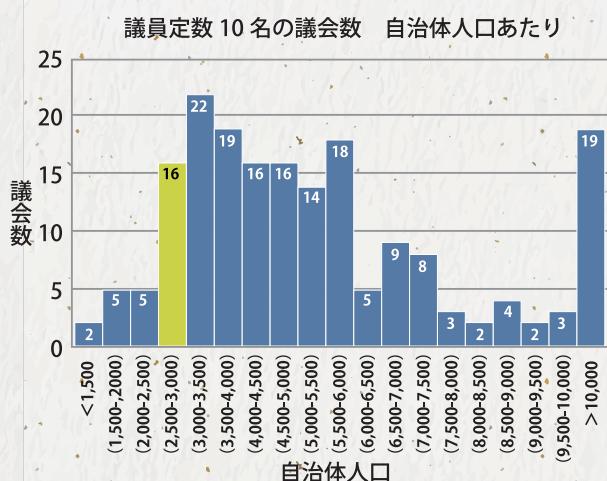
各委員会の活動について
ご紹介します。

総務常任委員会

「町村議会議員の議員報酬等のあり方 最終報告」を全議員で読み込んだ後、出席議員全員で意見を出し合いました。

まずは定数削減の賛否を含めた論点の洗い出し段階であり、論点をまとめた議事録を次の会議に役立てるよう整えています。今後、『議会だより』でも公開していくかと思います。

(総務常任委員長:木村諭史)



▲総務常任理事会に提出した資料。第63回町村議会実態調査のデータ(平成29年7月1日時点)を元に木村委員長が作成。議員定数10名の議会としては、新島村は人口が少ない自治体に入るが、まだ一般的な範囲内ではある。人口規模のみならず、2島3地区などの状況もあわせて議論したい。